

第 15 回八戸市学校適正配置検討委員会会議録

日 時：平成 22 年 8 月 10 日（火）13:30～15:30

場 所：八戸市庁本館 3 階 議会第四委員会室

出席者：（委 員）目修三、古館良策、今勝康、大島光子、今川一、黒澤宗男、古館義美、
北向幸吉、岩村隆二、日山祥子（以上 10 名）

（市教委）松山教育長、芝教育部長、前田教育部次長、高野学校教育課長、
八木田学務 GL、磯嶋学務 G 主査、町井学務 G 主査（以上 7 名） 計 17 名

事務局：ただいまから第 15 回八戸市学校適正配置検討委員会を開催させていただきます。本日の出席委員は 10 名となっています。よって、八戸市学校適正配置検討委員会設置要綱第 5 条第 3 項の規定により、本日の会議は成立となります。それでは審議に入らせていただきます。進行は目委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。まずはじめに、前回審議を終了した白山台中学校地区について事務局でまとめていただきましたので説明をお願いします。

（事務局「白山台中学校地区の審議のまとめ」説明）

委員長：ありがとうございました。審議のまとめについてご意見、ご質問はございますか。

（委員意見・質問なし）

委員長：それでは、このようにまとめるということで委員会として了承したいと思います。次に対象地区の審議となります。私からの提案ですが、次第では最初に市川中学校地区の審議となっておりますが、前回審議を終了した白山台中学校地区にも隣接するということもありまして、最初に明治中学校地区について審議したいと思いますがいかがでしょうか。

（委員意見・質問なし）

委員長：それでは、最初に明治中学校地区の審議に入りたいと思います。事務局から対象地区の説明をお願いいたします。

（事務局「明治中学校地区のまとめ」説明）

委員長：ありがとうございました。それでは、これまでの説明に対する質問を含めて委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

委 員：明治中学校地区の地域意見交換会で、明治小学校の児童がなかなか増えないのは、この地区が市街化調整区域だからという意見があるが、この地区は別な問題はるか。館地区はもとの住民は多いはずである。八戸駅にも近く交通の便も良いのに思うように人数が増えない。このことは地域の人たちにとっても悩みの種だと思う。ニュータウンは人がすごく増えている。

委員長：その辺は事務局のほうで把握していますか。

事務局：新幹線八戸駅が開業したことで交通の便がよくなったのは確かですが、その影響で宅地開発が進むかという点必ずしもそうではありません。

委員長：市街化調整区域に関する考え方についても、この委員会として認識を一致させておく必要があると思います。

委員：調整区域だけが一概に問題ではない。櫛引あたりでも空き家が増えてきている。かつては櫛引も賑やかであったが現在は人気のないところも多くなってきている。

委員長：以前、調整区域の議論の中で、八戸市においては住宅地から外れているところへ家を建てるのがそれほど多くないということを知りました。そういう意味では、団地を造るのと調整区域を剥ぐというのは少し意味が違うような気がします。団地の場合は、完全に住宅地として整備したものを売りに出しています。調整区域を外したからといって、団地並みに人が住むようになるかといえば必ずしもそうではないと思います。

委員：明治中学校の生徒数が少なくなるのであれば田面木地区との統合も考えるべきであるという意見もあるが、明治中学校のあたりはけっこう細い道であると思うが、ここからニュータウンへ続く道路はあるのか。

事務局：明治中学校の上のほうからニュータウンへ続く道路はあります。舗装されていますがバス通りではありません。根城地区へは国道 104 号線を通るバスが運行されています。

委員：だいぶ昔だが、田面木小学校と明治小学校を併せて中学校をそのあたりに建てるべきだという話があった。今は子どもの数が減少しているのでそういう話は完全に消えたが、田面木から根城に行くには距離的には遠く、明治と一緒にあったほうが良いという話は過去にはあった。

委員長：学校カルテを見ましても、明治中学校は比較的少ない生徒数でこれまで続いてきています。

委員：この地区は古くからの住民はずっと住んでいるが住民の流入が少ない。市街化調整区域のことだと思うが、若い夫婦が住めるような環境づくりを云々と言っているけれども、はたしてそれが可能かどうかということを考えれば難しいのではないか。明治中学校も民家から離れて坂を上ったところにある。

委員長：6年後も明治中学校は3学級、明治小学校も6学級と現状では各学年1学級は確保できる見込みです。現時点では、複式学級は考えなくても良いという状況ではあります。

委員：田面木地区との統合も考えるべきであるという保護者の意見があるが、その反面、生徒数が少なくても小規模校として存続してもらいたいという意見もある。旧館村の地域の感情としては、小学校と中学校を一つずつ残してほしいという強い要望があるように感じる。平成28年度になっても明治中学校も明治小学校も各学年1学級を確保できるとのことなので、現状のまま維持していくのが良いと思う。また、高岩児童館が明治小学校から離れていて遠いという意見があるが、館地区の環境が変わらないうちは仕方がないとも考える。今のところ明治中学校、明治小学校は現状維持で見守っていったほうが良いと思う。

委員長：現状維持が良いのではというご意見がありましたが、他にご意見はありますか。

委員：私も同意見である。

委員：私もそう思う。

委員長：今までの議論の経過、流れから見て、規模的にもすぐ統廃合ということにはならないと思います。いくつか問題点を考えた上で、方向としては現状維持としたいと思います。なお、ここは1小学校1中学校地区でありますので、いわゆる小中の連携、小中一貫教育ということも対象となりうる学校だとも思います。それではまとめますが、明治中学校地区の明治中学校、明治小学校については現状維持ということによろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それではそのようにまとめさせていただきます。事務局におかれましてはこの内容でまとめをお願いします。

委員長：それでは続きまして市川中学校地区の審議に入りたいと思います。事務局から対象地区の説明をお願いいたします。

(事務局「市川中学校地区のまとめ」説明)

委員長：ありがとうございました。それでは、これまでの説明に対する質問を含めて委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

委員：市川中学校地区の地域意見交換会で、桔梗野小学校で複式学級を経験したという意見がある。桔梗野小学校は児童数が多いはずであるが、この質問の背景について知りたい。

事務局：桔梗野小学校はもともと轟木小学校水目沢分校として昭和23年に開校しましたが、その当時は複式学級だったようです。

委員長：桔梗野小学校の複式学級というのは相当昔の話だったようです。今はむしろこの市川地区4小学校の中では最も児童数が多い小学校です。この中学校区は、3つの小学校が近くにあつてそこから田んぼが横断して桔梗野小学校が離れたところにあるという地理的状況があります。その辺も議論が必要であると思います。その他ご意見はありますか。

委員：これまで審議した中では、1小学校1中学校の地区や1小学校から2つの中学校に分かれて進学する地区があり問題も多少あった。この市川中学校地区は4つの小学校が集まって1つの中学校に進学するということであるが、何か大きな問題はあるのか。

事務局：小中ジョイントスクール推進事業を立ち上げたときに、市川中学校地区は小学校が4つで中学校が1つなので連携が難しいかもしれないと危惧していましたが、4つの小学校間のいわゆる小小連携という部分では逆にうまくいっていました。それによって中学校との連携もうまくいっています。広い地域ですので、先生方が一箇所に集まって研修したり会議したりすることにつきましては多少ハンディを負うというのは確かですが、それをプラスに変えています。もう1つは、それぞれの連合町内会もネットワークを組んで行事活動を盛んに行っているという特徴があります。

委員：だいぶ前の話だが、市川地区の青少協の事業に呼ばれて行ったことがある。ソフトボール競技など4つの小学校同士の交流が行われており、それを中学校の生徒がフォローしてあげている。終わった後は中学校の体育館に4つの小学校の児童が集まっている。そういう運営を地域の方が関わってやっている。その当時も非常にうまくやっていると感心した。確かに、一つひとつの学校の児童は少ないが、地域性を良く出しながら中学校がうまくコントロールしながらやっているの、距離的な問題もあるが、強引にこれらの小学校をどうしようこうしようというのは非常に辛い感じはする。すごくうまくいっている地区である。

事務局：ご参考までにお知らせいたしますが、桔梗野小学校を卒業した児童は路線バスを利用して市川中学校に通学しています。そういう問題も時々話題になります。

委員長：バス通学に対する補助要請は過去にありましたか。

事務局：地域では時々話が出るようですが、机上での議論までいったというのはなかったと思います。

委員：今この4つの小学校で問題になるとすれば轟木小学校だと思う。

委員長：ただ歴史的には轟木小学校が一番古いです。

事務局：轟木小学校、多賀小学校は古く、歴史的には多賀台小学校が一番新しい学校です。

委員長：この地区の大きな論点の1つは、先程委員からもご発言がありましたように、轟木小学校が近い将来、複式学級になるという事態にまでなっていることだと思います。その他にご意見はありますか。

事務局：もし轟木小学校が統合するとなれば一番近いのは多賀台小学校か。

委員長：距離的にはそうなりますが、土地の高低差はあります。

委員：この地区では轟木小学校が歴史的には一番古いということなので、例えばその一番古い学校を多賀台小学校にくっつけるというようなことになれば、恐らくすんなりはいかないと思う。したがって、轟木と多賀と多賀台の3つの学校をセットにして、仮に多賀台小学校にくっつけるにしても学校の名称を変えれば良いのではないか。歴史的に古い学校が新しい学校に統合されるのはなかなか難しいのではないか。

委員：将来、小学校の建物が古くなってきた時に、市川中学校の近くに新しい小学校を建てて3校の児童が通うような形であればまだいいのではないか。

委員長：今の考え方は今後を考える上で重要だと思います。1つの学校を他の学校にくっつけるというのではなく、新しい学校を造るという考え方もあろうかと思えます。

事務局：ご参考まで、先日、他管内の計画訪問に行ってきました。ある町では、5つの小学校を1つにまとめるとのことで、ある1つの学校にもっていくわけですが、学校名や校章を変えると費用がかかるため、リセットするという意味で校歌を新しくつくる予定だという話をしました。

委員：仮に多賀小学校へ統合すると多賀小学校の校歌がそのままいきることになる。校歌にはその地区の地域性が出ている。そうではなく、新しい学校を建てて新しい校歌をつくるとなれば、地域住民も柔軟になってくる可能性はあると思う。

委員長：例えば3つの小学校を1つの学校にするときに、学校名を新しくするということは問題があるのでしょうか。

事務局：特に問題はありません。ただ地域の方々が納得すればの話ではあります。

委員長：轟木小学校の建物は築何年経つのでしょうか。

事務局：轟木小学校の校舎の建築は昭和46年3月ですので約40年経ちます。

委員長：他の小学校はわかりますか。

事務局：多賀小学校は昭和42年3月から昭和44年1月までに、多賀台小学校は昭和46年3月から昭和47年3月までに建築されています。

委員長：これらの小学校は耐震診断は行われたのでしょうか。

事務局：今お話ししました3つの小学校は全て「要補強」という診断結果が出ており、いずれも今年度中に補強工事を実施するための設計を行う予定であり、その設計が完了次第、順次、補強工事を行っていく予定です。なお、桔梗野小学校は昭和41年8月から昭和44年3月までに建築され、耐震診断結果も「要補強」でしたが、平成21年度に改修済みです。また、桔梗野小学校は平成19年3月には教室棟を増築しています。

委員長：そうしますと、委員ご発言のとおり3つの小学校を統合して1つの小学校を新設するとすれば、市川中学校地区は新設小学校と桔梗野小学校の2つの小学校から市川中学校に進学するという1つのプランも成り立つと思います。

委員：6年後の3つの小学校の児童数を足すと317名になるので規模的には丁度いいのではないか。

委員長：そうしますと1学年約50人となります。それでも各学年2クラスなので大きな学校ではないです。地域の問題はいろいろあるとは思いますが理想的ではあると思います。その他に問題点等はありませんでしょうか。

委員：この地区に関しては、それぞれの学校間での学区外の流出入が多いことから問題ないと思う。市川中学校は3つの小学校の丁度真ん中に位置するのでその近くに小学校が1つ建てば理想的だと思う。

委員長：轟木小学校に一番遠くから通っている町内は轟木上あたりになるのでしょうか。

委員：この3つの小学校から市川中学校の近くまでは全部バスが通っているはずである。

委員長：そういう意味では、交通の便も公共の機関を使えるということになります。

委員：轟木小学校の近くの道路は広く舗装もされている。また轟木地区、多賀地区はそれぞれ地域の特色もあるので、なかなかすんなりいかない可能性もある。

事務局：4つの小学校の子どもたちの気質もそれぞれ違います。

委員：多賀台地区が思ったほどあまり発展しなかったような気がする。

委員：最近、企業は社宅を持たない方向にどんどん移行している。

委員：この地区の適正配置の方向性は、今のところは現状維持とし、将来的には見直すという付帯意見をつけたらよいのではないか。

委員長：轟木小学校のことを考えると、将来といってもそんなに先ではまずいと思います。

委員：轟木小学校はいつから複式学級となるのか。

委員：資料を見ると平成27年度からとなっている。

委員：複式学級が導入される前に見直ししたほうがいいのではないか。

委員長：平成27年度は今から5年後なので、校舎もそろそろ建て替える時期でもあると思います。

轟木小学校を多賀小学校にくっつけるとなると相当問題が起きそうな気がします。多賀小学校まで含めて新しい小学校を建てるということであれば、地域の方々も協力の仕方が変わってくると思います。

委員：距離的に見ても市川中学校までの距離は、轟木小学校からは1.1キロメートル、多賀台小学校からは1.3キロメートル、多賀小学校からは2.1キロメートルと、だいたい歩いて30分以内の距離である。

委員長：この地区を考える上で、その他にご意見はありますか。

委員：これまでの審議の方向性に同感です。

委員：特に意見はありません。

委員：桔梗野小学校から市川中学校までバス通学しているとの話があったが、1ヶ月どれぐらい負担するのか。不公平感があるという地域の意見もあるので少し気になる。

事務局：桔梗野というバス停から市川中学校前までですと、1年間の通学定期で5万2,410円になります。

委員：階上地区にはコミュニティバスが通っている。南部バスが委託されて運行しているようだが、こんなところまで通るのかというぐらい細かい路地まで走っている。その分、1日に2、3本しか運行していないようだが。保護者が送っていけない場合はそういうふうに公共の交通機関を利用しているケースが多い。通学の負担があり不公平だという地域の意見もあるので、それに対して市から補助を出すかどうかは検討が必要である。

事務局：現状でお話ししますと、バス通学に対する助成制度は現在市では設けておりません。スクールバスが運行しているのは南郷地区だけです。南郷地区に関しては、かつて統廃合により廃校になった学校の地区からスクールバスを運行しています。

委員：中学校の校長先生の方針によっては通学方法も違ってくる。中学生は自分で起きて自分で歩いてくることという方針を立てている中学校もある。雨が降って天気が悪い時や体調が悪いお子さんについては保護者が送迎してはいるがそういうところは徹底している。健康維持や自己管理という面では、スクールバスを運行するとかバス代を補助するとなった時の兼ね合いが難しい。

委員長：その他ご意見はございますか。

(委員からその他意見なし)

委員長：それではそろそろまとめたいと思います。市川中学校地区については現在の段階では現状維持とする。ただし、轟木小学校は複式学級の導入が見込まれることから、可能な限り早い時期に校舎新設を検討し多賀小学校、多賀台小学校、轟木小学校の3校を併合して新しい小学校を建設することが望ましい。という形にまとめるといことでよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それではそのようにまとめさせていただきます。

委員長：本日の審議予定地区が終了しましたので事務局にお返しいたします。

事務局：それでは事務局から2点ご報告させていただきます。まず1点目は地域意見交換会の開催日程のお知らせです。第24回目の豊崎中学校地区を本日8月10日(火)午後6時30分から瑞豊館で、第25回目の三条中学校地区を8月25日(水)午後6時30分から三条中学校で開催いたします。ご都合がございましたらご参加いただきたいと思います。

事務局：もう1点ですが次回委員会の開催日程を決めたいと思います。次回は9月3日(金)午後1時30分からでお願いしたいと考えておりますがご都合の悪い方はいらっしゃいますか。

(委員異議なし)

事務局：それでは次回は9月3日(金)午後1時30分からで決定をさせていただきたいと思います。

以上を持ちまして第15回八戸市学校適正配置検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上